

(公社) 愛知県栄養士会実践報告会2025 報告書

【日 時】令和8年1月24日(土) 13:30～16:30

【会 場】ウインクあいち 1209・1210会議室または、オンライン

【参加者】現地参加 30名

オンライン参加 6名

今年度の愛知県栄養士会実践報告会は、演題発表6題とラウンドテーブルディスカッションを行った。発表者の所属部会の内訳は医療部会2題、公衆栄養部会2題、勤労者支援部会1題と、学生による発表が1題だった。

医療部会からの発表2題は、脳出血患者の排便コントロールにNSTが介入した実践例と、歯を健康に保つために必要な予防医療となる、歯科における管理栄養士の取組例の発表であった。

公衆栄養部会では、今年度より開始となった公衆衛生専門管理栄養士認定制度により開講された専門研修受講者による概要と、受講による成果や今後の展望についての発表があった。

勤労者支援部会では、給食施設におけるSDGsの取組例として野菜くずの削減とその活用について、学生からは、高齢者における味覚の感じ方の考察が発表された。

ラウンドテーブルディスカッションは、「管理栄養士・栄養士のコミュニケーション」をテーマに、講師の上原先生から講義をいただいた後、発表者を交えて活発な意見交換が行われた。

実践報告会の目的には、他者の活動を知ることにより、自身の課題を発見し、解決につなげることがある。また、発表者にとっては、自身の活動をまとめることで、業務を精査し、今後に活かすことができるという聴講者と発表者の相互に有用な意義をもつ。

栄養士の職務は多岐にわたり、それぞれ違う分野で働く中、日々の業務で困難な事象にぶつかることがある。また、多くの栄養士は、職場の中では少人数であり、困難な課題を一人で乗り越えなければならないこともある。そのような中、この実践報告会では、新しい取組や、最新の情報の報告があり、栄養士の活躍する場面の広がりや、職務の必要性を知ることができた。そして、他者の活躍を知ことは自身の励みともなったり、交流の機会により、新しいネットワークが構築されたりして、これからの栄養士としての業務に大変有意義であったと考える。今回はこれから栄養士として活躍するであろう若い学生の発表もあり、大変頼もしく感じた。次年度にもさらに新しい取組の報告があり、会員の自己研鑽につながることを願う。



文責 谷口郷子